

令和元年度小松市立月津小学校 学校評価(中間)

めざす児童生徒像

- ・ 課題に対し粘り強く取り組む子
- ・ 自分の考えを表現し吟味する子
- ・ 友達と協働できる子

※児童生徒達成結果－教員結果・保護者結果

目標	項目	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策	
			教員	児童生徒	保護者				
(学校重点項目)	協働できる子	行事で協働的に活動している児童の割合を100%にする	① 児童集会	100				運動会では児童会のスローガンを基にした働きかけによって、大多数の児童が協働的に活動できたと感じている。 今年度から児童集会で各委員会がそれぞれ発表する機会を設け、一学期中にも3つの委員会が発表することができた。	二学期の学校保健委員会やハッピーフェスティバルなど全校が活動する機会をとらえ、協働できるような取り組みを児童会を中心に行っていく。
			② 運動会	100	97.8	98.4			
			③ 学校保健委員会						
			④ ハッピーフェスティバル						
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
重点項目	石川県共通	働き方や業務の改善	すべての項目について肯定する教員の割合を80%以上とする	① 校務分掌や業務の整理・統合が図られており、業務の平準化がなされている。	81.8			すべての項目において肯定する教員の割合が80%以上だが、A評価は①27%、②36%、③46%であった。 業務の平準化は限度があること、部会が効果的に活用されていない分掌がありそのため提案文書を訂正できなかったことが原因と思われる。	分掌部会を開く時間を保証し、分掌部会を機能させるようにする。さらに、職員会議の前に企画会議を必ず設け、組織的に学校運営をする。そうすることが、職員会議の短縮、提案文書の訂正、業務改善につながると考える。
				② 分掌部会を機能させ、職員会議の短縮に努める。	90.9				
				③ 提案活動後直ちに振り返り、提案文書を訂正し、業務の改善に努める。	100				
				集計					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	学校研究	③について そう感じていると答える教員の割合80%以上	① 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている。	90.9			③について、肯定する教員の割合が80%以上となったが、A評価は50%であった。この結果から、月津スタイルがなんとなくは理解されているが、全員がきちんと共有できてはいないと考えることができる。  月津スタイルを周知するための手立てが十分ではなかったことが原因としてあげられる。	学期の中間、終わりにアンケートを実施し、取り組み状況や課題を職員全員で共通理解する。 日々の授業を考える際には月津スタイルを意識するよう呼びかけ、研究授業の際には月津スタイルの視点で参観し、整理会で議論する。	
			② 研究主題に迫る目指す授業像(児童生徒像)を共有し、研究の視点に沿った授業研究会を計画的に行っている。	100					
			③ 教職員一人一人が授業研究に取り組み、月津スタイルを共有・実践している。	100					
			集計						
			指導力の向上	授業	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	90.9			96.8
	② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	100	95.2			-4.8			
	③ (発表力) 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	90.9	90.4			-0.5			
	④ (記述力) 児童生徒は、自分の考えを書く機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して書いている。	81.8	91.4			9.6			
	⑤ 児童生徒は、授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。	91	97.9			6.9			
	⑥ 児童生徒は、「わかった」「できた」と学びに対する達成感を得られている。	90.9	98.9			8			
	学力の定着	学力調査	④⑤について目標点を達成することができる。	① 学力の重点目標や具体的な取組は全教職員で共通理解し、目標を達成できるよう徹底して行っている。	100			②については学力調査の分析を基にして検証し、つけない力を共通理解しながら進めていることが90.9%につながっている。 ③については1学期に一度家庭学習の手引きの見直しについて小中連携で確認するなど学力向上に関する話し合いを行った。学力調査については今後話し合う。 ④⑤については2年算数3年国語が目標に届かず。〔理由〕個人差が大きく、目標達成できるような習熟に不足がある児童が見られたこと。	①②についてはロードマップに基づいて定期的に検証を行いながら計画的に取り組みを進めている。 ③について8月29日に2度目の小中連携の会を開く予定である。その際に学力調査に関する情報交換を行う予定である。 ④⑤については各学年の課題を明確にし、目標に届かなかった児童を中心に帯タイムを使って手厚く個別支援を行っていく。
				② 学力向上ロードマップにおける各自の役割を教職員が理解し、定期的な検証がなされている。	90.9				
				③ 近隣等の小中学校と学力調査の結果や分析、成果や課題を共有している。(小中連携)	72.7				
				④ 一学期単元末の国語のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は80点を目標とする。	1年95点2年90点3年75点4年80点5年87点6年88点				
				⑤ 一学期単元末の算数のテストの平均点を低学年は90点、中学年と高学年は80点を目標とする。	1年98点2年84点3年84点4年83点5年84点6年80点				
家庭学習	①について児童アンケートの割合を80%以上にする。	① 自分で計画を立てて勉強している。(3年以上)	100	86	72.1	-14	①については前年度より家庭学習強化週間を通じて継続的に啓発活動を行ってきたため、保護者の割合が増えている。(昨年度末64.9%)理由(計画を立てるといふことの意味が分かりやすいカードをつくったため)	家庭学習強化週間を全校で一斉に取り組むことに意味があり、強化週間を通じて家庭学習の啓発につながっている。 今後は、カードが保護者の目に触れる機会を増やし、保護者と児童がより一体となった取り組みにしたい。(毎日持ち帰り)	
		② 児童生徒の家庭学習の評価・指導を行っている。	100	97.8		-2.2			
		集計							

令和元年度小松市立月津小学校 学校評価 2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>〈「学校が楽しい」と回答する児童を80%以上にする〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会を中心に、学校生活アンケートの結果を分析し、課題を見つけその解決につながるような取組を企画・実施する。</li> <li>・「自分からあいさつ」「全校が仲良く」「感謝の気持ちを伝える」ができる月津小につながるような活動を、児童会中心に広げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期末の段階で「学校が楽しい」児童の割合は75.6%であった。4月初めのアンケートの80.1%と比べ減少した。アンケートの度に「楽しくない」児童個々の理由を明らかにし、対処してきた。</li> <li>・アンケートから月津小の問題点を「廊下を走る人が多い」とし、「歩こういいね運動」を実施できた。2学期以降も児童の感じる学校生活における難しさや期待していることをアンケートから読み取り、活動を企画実施する。そうすることで児童の学校生活への充実感が高まるとともに、目標とする児童の姿に近づくと考えている。</li> </ul>	
	<p>〈児童の未来を考え、特別支援教育の理解の向上を目指す〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的・短期的な支援計画を立てて、特別支援教育校内委員会を通して児童の理解を深める。</li> <li>・特別支援教育校内委員会や児童理解を計画通り実施し、関係機関とも連携をとりながら進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「特別支援教育の理解が深まり、組織的な対応ができていない」について教職員アンケートでは、「そう思う」が75%であった。また、「関係機関との連携を図る」について教職員アンケートでは、「そう思う」が83%であった。担任から気になる児童の相談があった場合、その症状に応じて専門機関と連絡をとり、対応してきた。これからも、校内の心の相談員やスクールカウンセラーにも協力していただき、さらに、児童理解について深められるよう関係機関とも連携して取り組む。</li> </ul>	
道徳教育	<p>〈「考え」「議論する」道徳授業の実践を目指す〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳推進教師を中心に研修を行い、職員に還元することで道徳授業を充実させる。</li> <li>・振り返りを記録に残し、評価にいかす。</li> <li>・重点項目を中心に項目にもれが無いように取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳推進教師を中心に、板書や問い返しの仕方についての職員研修を行った。</li> <li>・職員会議等を通し、振り返りを記録し、評価にいかしたり、重点項目を中心に、項目もれが無いよう声をかけるようにした。</li> <li>・これまで2回の授業参観で、5学級が道徳を実施している。</li> </ul>	
	<p>〈読書の質的な向上を図る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員が「おすすめ10さつ」を達成する。</li> <li>・図書ボランティア・司書・担任などが読み聞かせやブックトークを通して、良書に触れる機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おすすめ10さつ」の取り組みについては、全校で約70%の児童が達成することができた。学年によって達成状況が異なるので、引き続き声かけを行う。また達成できた児童については、図書委員会を中心に本の紹介や読み聞かせなどを通して読書の幅を広げられるような取り組み等を行う。</li> <li>・図書ボランティア等の読み聞かせによって、児童たちは普段触れ合うことがない本への興味や関心を持つことができた。</li> </ul>	
保健安全教育	<p>〈メディア機器とうまく付き合う方法を考える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校保健委員会や児童保健委員会が中心になり、昨年度決めた「メディアルール」の徹底を図る。</li> <li>（各学期に1回アンケートをとり、80%以上をA、60%以上をB、60%未満をCとする）</li> <li>・体重測定時に、メディアと体に関する「ミニ保健指導」を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の児童アンケートでは「月津メディアルールを守っている」は86.1%が達成でき、Aという結果だった。保護者アンケートでも、95.3%が守れているという結果だった。これは折に触れ（ミニ保健指導も含め）、メディアのし過ぎは健康に良くないという話をしてきた成果と言える。しかし、学年が上がるにつれ休日にやりすぎる傾向がみられるので、2学期に行われる学校保健委員会などを通して、さらに呼びかけを図っていきたい。</li> </ul>	
	<p>〈計画的段階的にキャリア教育を推進する〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校外部の講師の方や地域の先生方を招聘し、体験活動をしたり仕事に向き合う姿勢を学んだりする。</li> <li>・各学年で目標を選び、計画的段階的にキャリア教育を進めていく意識を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各担任の先生方への呼びかけを行い、学年に応じたキャリア教育の目標を選択することを提案した。段階に応じて必要な学びを意識すること、また目標を掲示することで縦のつながりを知った上で指導することで、学校全体でキャリア教育を推進していく。</li> <li>・キャリア教育担当を中心に、推進のための具体的な取り組みなどについて共有するための職員研修を行った。</li> </ul>	
情報教育	<p>〈PCスキルの向上をねらいとした授業時数が目標時数を上回っている〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年につけたいPCスキルを各学年の教員に具体的に示し、共通理解を図る。</li> <li>・教育センターのインストラクターを積極的に活用していくよう働きかける。</li> <li>・メディア機器やPCの環境を整え、児童・教員ともに利用しやすいように整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の総合的な学習の時間等でPCスキルを指導する時間を取っている。</li> <li>・研修で得た情報を共有するために、プログラミングのOJTを8月29日に実施する。</li> <li>・まだ、教育センターのインストラクターを活用していないので、2・3学期に積極的に活用していきたい。各学年の利用計画を立て、月ごとにどの学年が活用するかを明確にする。</li> <li>・パソコンルームのPCや職員室に置いてあるカメラは整頓されているので、現状を維持できるようにする。</li> </ul>	
	<p>〈児童会活動やふるさと教育を通して時と場に応じた挨拶ができる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の挨拶運動を振り返り、何のためにしているのかを確認したうえで、児童会活動を通して運動を推進する。</li> <li>・総合的な学習の時間に人を含めたふるさとの良さに触れ、よりよい地域の担い手として必要な挨拶の大切さに気付かせる。</li> <li>・家庭や地域において、挨拶ができるようアンケート等を通して啓発する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の挨拶運動は、児童会を中心に大きな声で挨拶する姿が当たり前になってきた。反面それ以前に登校する児童の挨拶に元気がなくなった。2学期始めグッドマナーキャンペーン等を通し、気持ちの良い挨拶を体験させたい。</li> <li>・1学期のふるさと学習は、地域の様子をつかむ段階であった。2学期のふるさと学習は地域の方と触れ合う計画なので、人と人を繋ぐあいさつを実践させたい。</li> <li>・「家で互いに挨拶をする」は保護者97.4%、「自分から挨拶する」児童は96.8%であり、育友会総会や広報等での啓発がよい結果に繋がっている。</li> </ul>	
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方や業務の改善として、職員会議を審議の場でないことを周知し、会議自体の回数を減らすことも視野に入れるとよい。</li> <li>・家庭学習について、学力を上げるのは基本的には学校での学習であり、家庭学習はそれを補うものである。何のためにしているのかを学校で確認してほしい。子どもたちは毎日忙しく、習い事と家庭学習をがんばっている。教員同士で話し合い、学年に応じた課題を出してほしい。また、教員だけでなく、児童のワークライフバランスも考慮してほしい。</li> <li>・生徒指導において、「学校が楽しい」児童の割合が、75.6%は低い。それはどうしてかを明らかにし、対応してほしい。9割が「学校は楽しい」と思うようになってほしい。</li> <li>・2学期に地域の人に来てもらうことが多いという活動は、とてもよい。額見町に九谷焼の絵師さんがいるので、活用するとよい。⇒4年生見学済み（2月）</li> <li>・「働き方や業務の改善」①業務の平準化の項目では81.8%⇒66.7%となっているが、職員の不公平感の原因を探り、次年度の計画を立てるとよい。</li> <li>・「読書教育」について、高学年の貸し出し数が減少したようであるが、本は足りているかを把握し、本好きな子どもを育ててほしい。</li> <li>・「キャリア教育」について、体験学習を入れた計画をしキャリア教育の充実を図ってほしい。</li> <li>・挨拶について、授業参観等の様子から、お客さんや来校者への挨拶についても指導し、いつだれに対しても挨拶のできる子を育ててほしい。</li> <li>・「教職員アンケート」から、考えることや発表、記述等の項目の肯定感の割合の減少が大きいが、次年度の学校研究の計画がしっかりとされているので、改善できるのではないかと「保護者アンケートコメントから」</li> <li>・特別教室の使い方について（衛生面、安全面）職員で共有すべきである。</li> <li>・児童の生活のルールや学習規律などの守り切れていないことは、保護者から情報を得たので、しっかりと指導してほしい。</li> <li>・登校渋りの際・相談したとき等の対応がよいということや学校に楽しく通っているということを思い表現してくれる保護者がいるのは素晴らしい。</li> </ul>		